

平成 14 年度第 2 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 14 年 7 月 11 日 19:00～20:30
市民活動サポートセンター交流サロン

出席委員 12 名……新井、水谷、安倍、飯島、飯塚、今城、岩崎、江口、林、松尾、百瀬、横山
事務局 4 名……YMCAよこすかコミュニティサポート 田口、高村、神山
市民生活課 山田

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

提案どおり承認した。

3 その他

- ・運営委員の住所録を作成し配ることとした。(配布済み)
- ・市民協働推進補助制度の審査結果を報告した。
- ・市外での催しや市外で活動する団体でも、横須賀市民が参加できるものや、多くの市民が会員である団体の活動等は、情報誌等でのPRを制限しないことを確認した。
- ・次回運営委員会は、10月24日(木)。

[意見概要]

市民協働推進セミナーについて

(事務局)

- ・セミナー参加者から希望者を募り、実行委員会形式で9月21日(土)に産業交流プラザ第1研修室を会場に市民協働推進フォーラムを開催する。第1回目の実行委員会は7月17日午後2時からサポートセンターで行う。
- ・受講者から数人が希望しているが、運営委員からも希望があれば事務局まで連絡いただきたい。

(林委員)

- ・セミナー最終日の講師川北氏はどのような人か。

(事務局)

- ・NPO支援を行っている団体IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]の代表者で、NPOマネジメント講座等の講師として全国的に有名で、わかりやすい講座内容が評価されている。川北氏の講座を受けたいと参加した受講者も多数いる。

(松尾委員)

- ・昼と夜の2講座で拘束時間が長いことなどがわからず、講師謝礼が高いように誤解される恐れがあるので、例えば@25,000×2講座という表記にした方が良い。

(林委員)

- ・質問がかなりあったということは、それだけ反響があったということなので、内容が評価できる。次回はぜひ受講したい。

利用者ミーティングについて

(新井委員)

- ・利用者ミーティングやセミナーほか、いろいろな行事等に運営委員の参加、協力をお願いする場合などのために、運営委員の連絡網を作成したい。よければ今日作成し配布したい。
- (→承認し、配布)

市民公益活動団体について

(新井委員)

- ・No.337 のヨコスカ“心のケア”ネットワークとはどのような団体か。

(事務局)

- ・データベースに書かれた内容のとおり活動内容欄に記述している。サポートセンターはあまり利用していないようなので、それ以上のことは承知していない。健康をテーマとしている団体はさまざまだが実態がわからないものが多い。

(林委員)

- ・癒し系の団体は、わかりにくい団体が多いのではないか。

パソコン講座について

(新井委員)

- ・講師謝礼が少ないように思われる。

(今城委員)

- ・シニアネットでは交通費としていただく謝礼は、講師個人ではなく、会の収入にしている。講師が多いのでほとんどマンツーマンで講座を行っている。
- ・今回のホームページ作成講座は 16 回休まず出席すれば必ず団体のホームページを作成できる。ビルダーというソフトを使えば、オリジナリティはあまりないが、簡単にホームページが作れるので、ホームページを持っていない団体はぜひチャレンジしてほしい。

市民公益活動に関する相談業務について

(新井委員)

- ・相談があっても誰につないでいいか困ることもあると思うので、運営委員がこの分野の相談なら対応できるということを事前に伝えておいたらどうか。

(事務局)

- ・今のところ相談件数もあまり多くなく、サポートセンターで対応できるものが多いので、相談があった段階で相談内容に適した運営委員を紹介する形を考えた。

(今城委員)

- ・どの分野の相談に対応できるということが表示されていないので相談件数が少ない。誰がどの分野で対応できるということが表示されていれば相談する人は増えるはずである。

(江口委員)

- ・今の段階で運営委員が登録するは必要ないと思う。自分でこの分野の対応ができると申告しても、実際にはできない場合もある。

(飯塚委員)

- ・登録までせず、事務局提案どおり、相談があった時点で対応してはどうか。

その他

市民協働推進補助制度審査結果について

(水谷委員)

- ・書類は整っていてもプレゼンテーションでやりたいことが表現できない団体、逆に書類があまり良くできていなくてもプレゼンテーションで意欲が伝わってくる団体とさまざまだった。申請書類の書き方等をアドバイスしてあげられたら、きっと対象になるのと思う団体もあった。また、若い世代も努力しているという印象を受けた。

(今城委員)

- ・どの団体にいくら補助金が出ているかわかった方が良い。

(市民生活課)

- ・資料は審査会の審査結果であり、補助金交付決定は、今後、申請に基づき市長が行う。
- ・上限は、はじめの一步 10 万円、ステップアップ 50 万円になっているが、上限より少ない額で申請している団体もあるし、実績額が申請額を下回って事業実施後、市に戻入する場合もあるので、実際の交付額は事業終了後でないとはっきりしない。市民協働推進条例に基づいて補助金関係の書類は公開することになっているので、最終的には見ていただける。

(松尾委員)

- ・今後の勉強のために説明会に参加したが、やってやっているという雰囲気があり不愉快に思った。

サポートセンターの運営に関するまちづくり電子フォーラムについて

(今城委員)

- ・サポートセンターの運営に関する電子フォーラムがあるが、運営委員会で情報を共有できていないので、内容によってプリントアウトして情報を共有した方が良い。
- ・サポートセンターのホームページから、その電子フォーラムにリンクを張ると良い。

(事務局)

- ・必要に応じて、運営委員会で情報を共有できるようプリントアウトしたものを用意するなどしたい。

市外の団体の催し等PRについて

(事務局)

- ・庄司委員から情報広場 7 月号の金沢八景 YMCA の記事について、市民の税金を使って市外の団体の PR をするのはどうか、運営委員会で協議してほしいとの連絡があった。
- ・市民活動体験フェアの参加団体説明会でも、小網代の森を守る会が参加していることについて、市民のための施設なのに市外の団体の活動を PR してよいかという意見があったが、近隣の団体の活動でも、多くの会員が市民であったり、市民が参加できたりする場合には、サポートセンターとして積極的に PR していきたいと考えている。

(松尾委員)

- ・追浜まちづくり探検隊では、平瀨湾を共有している団体として、金沢区の環境関連の団体と一緒に活動している。そういうケースはよくある話である。

(飯塚委員)

- ・川は市域に関係なく流れ、1つである。

(今城委員)

- ・よこすか市民会議では、市のイメージアップでの考え同様、市外の人を呼び込むということを目標に置いている。市外の人が来たり、市民が市外へ行ったりして、人の交流があるということは、結果として市のためになることであり、市域に囚われる必要はない。